

COLUMN

鎌倉の猫事情 第八十三話

海辺をぶらぶら歩いていると、砂浜に強い風と波で打ち上げられたワカメが、点々と落ちて見られます。それと共にぷんぷんと磯の匂いが漂ってきます。磯臭く湿気を含んだ生臭いような香りですが、この空気を胸いっぱい吸い込むと、「あ、やっぱり今年も春が来たんだ」という気持ちがあるのです。強風が吹いた翌朝には、浜辺に打ち上げられたばかりの新鮮なワカメを拾いに来る人達のにぎわいが見られます。春先のワカメ拾いは、鎌倉の呑気な風物詩です。飛ぶのが下手で猫をして餌をとるのが苦手のカラスも、この時期は浜辺を歩いていけば食べ物に困らないんじゃないでしょうか。それでもやっぱり、カラスもワカメばかりじゃ飽きるでしょうね。やれ、お刺身だの、佃煮だのと、賢沢三味のグーニー君とスィーピーちゃんにはわからない浮世の苦労があるものです。この冬は大して寒い日もなかったのですが、こうした春の気配を感じると、なんとなく、ほっとしたのんびりとした気分になります。いつもお店では、「いらっしやいませ〜」「ありがとうございました〜」なんて、元気な声を張り上げて働いているスタッフ達のほっとする時間は、「まかない」と言われる食事の時間です。スタッフは自分の食事の番が廻ってくると、コップに注いだお水と、フォークを手に



Café

カフェの話 5
純喫茶 メイミ

昔、純喫茶・・・と呼ばれた喫茶店がありました。私の子供の頃、昭和30年代の町中には、「純喫茶」と描いた看板を出しているお店がよく見られました。何が「純・・・」だったかと言うと、当店はお酒を飲む店ではないという意思表示だったのだと思います。

もっと前の時代、戦前の「かふえ」という響きには、少し淫靡な印象がありました。「かふえ」は、ただ珈琲を飲む所ではなくお酒を飲ませるのが目的の場所でした。西洋風の造りで椅子テーブルを備え付けた飲み屋が新しい形だったのでしょう。「かふえの女給」と呼ばれる職業があり、女給さんは、ウェイトレスだけでなく、男性客のお酒の相手もしたのです。当時、お酒の相手をする場所は、昔とても警戒されていました。そういう場所に入出入りすることは、特に女性はタブーで、墮落であるとさえ思われていたのです。

今では考えられない、そういう時代がありました。それで、うちはそんな店ではありません、ということを示す為に誰かが「純喫茶」という看板を出すことを考え、全国的に広まったのだと思われます。

「純喫茶」と命名されてからも、喫茶店は子供には近寄りづらい場所でした。当時の流行の石造り風の外壁に、煉瓦タイル張りの店内、木造のカウンターや、電話室、レザー張りのボックス席。私が生まれた町にも、そんな店がありました。

「純喫茶 メイミ」というそのお店は、同級生の家でもありました。私にとって大人の場所であった「メイミ」の娘であった彼女は、きっと何か秘密を知っている女の子でした。小学校で会う彼女は活発で健康そのものの女の子でしたが、それは仮の姿で、本当の姿は私の知らない世界に住んでいるずっと大人の女の子なんだらうと、想像していました。もう少し大きくなった時、何かの拍子に大人の人にそのお店に連れて行かれたことがありました。私に珈琲は無理だと思ったその人は、私を高いカウンターに座らせて、でこぼこした氷の入った厚いガラスのコップと、茶色いビンの「ガラナ」を注文してくれました。ほろ苦く甘酸っぱく、ドキドキしながら飲みました。ストローから目を上げると、柱の向うでその娘が笑って私を見ていました。

昨年、父が亡くなり、久しぶりに生まれた町を訪れてみました。

「純喫茶メイミ」は、変わらずにありました。その娘が今は経営しているという話です。



いそいそとお店の裏へ消えて行きます。南向きの厨房の裏が皆の休憩場所です。そこで物干し台に上がる階段梯子に腰掛けて、日向ぼっこをしながら、厨房スタッフが腕を奮ったまかないを頂くのです。が、呑気にご飯を食べている背後には、油断も隙もなくグーニーが迫って来ています。以前、今はもう辞めていないS君が腹ペコを抱えてご飯にありついていたのですが、水を飲もうと、ふと横を向いた際に、アジの干物を啜って行かれたそうで、S君、本当に悔しがってました。しばらく両者の間に溝ができたほどでした。働き者のスタッフSちゃんは、「コップのお水、ほとんどグーニーに飲まれました」と言っていました。私が見るところ、グーニーは相手によって随分悪さが違うようです。お腹が減っているわけではなく、悪戯というか意地悪というか、そんなつもりなんでしょう。近頃は悪さも減って、ただご飯を食べているスタッフの横におとなしく座っているだけです。グーニー君、何か食べている人を見ているのが大好きです。だから何か食べていると、顔の横にぴったりと近づいてじっと見えています。始めてそんな事されると、なんだか変な感じがしますし、危険も感じますが、皆も大して危険がないとわかり、最近はお飯の時に、グーニーが遊びに来るのを楽しみにしています。今日も階段梯子に座りこんでご飯を食べるスタッフの横に張り付いていましたが、そのうちふっと、空を見上げたかと思うと、いったい何が見えたのか、グーニー君、耳をぴんと立てて身構え、ひらりと塀を越え、どこかへ飛んで行ってしまいました。

to be continued

LIVE

ミルクホールの BAR TIME を
ライブでお楽しみ下さい。

by HALF MOON

3/21 Sat.

琢磨 仁
琢磨 啓子

19:30~

HALF MOONは、愛と平和を歌います。

2009 Milk Hall

ANTIQUES BAZAAR

2009年、ミルクホールでは毎月一度、テーマを決めて
ガラクタ・アンティーク・骨董の催事を開催いたします。
催事の日程・内容は毎月変わりますので、タイムス紙上にて、
お知らせ致します。



京島月通信

日本の木のもの

昔の日本人の暮らしは、常に身近に生きていた木と共に
ありました。身近にあった木で家を作り、家具を作り、道具
を作り、燃料として湯を沸かし、土をこねたものを焼いて器
を作りました。江戸時代までの日本では、地方と地方の往
来が自由ではありませんでしたから、その土地から出来た
もので何もかも作りました。ですから家具も、道具も、焼き
物も、地方の特色が非常に強く現れました。各地の気候
や経済事情なども現れます。東北は寒いので仙台箆笥や、
庄内箆笥のように綿入れの着物に耐えられるような頑丈な
作りで、抽斗も深く作られています。頑丈な本体に合うよう
に金具も大きくしっかりしています。京箆笥は薄手の絹物
を仕舞う為、華奢な作りで抽斗も一段が浅く段数が多い形
になっています。長年日本の木の家具や道具を扱って驚
かされることは、古い物が保存良く残っていることです。
背板などに購入日が記されているのを見ると、江戸時代の
物も珍しくありません。きちんと組み立てられ、漆で仕上げ
た極め細やかな職人の高い技術が今現在も生
きています。道具類も裁ち台やまな板、道具
箱や作業台など、百年以上経った今まだ、
何十年も使えるほど丈夫です。使う人が
毎日手で触り、長い歳月に木の目が深く
洗われ出た木の味わいは格別なものです。

日本の風土に生まれ、日本人の細やかな
気質や、小柄な体型に馴染んで愛されてきた
日本の木のものは、今でも私達の暮らしに
馴染む、便利で優しいパートナーです。



3月14日(土) ~
20日(祝)

蚤の市

日本の木のものをテーマに、
骨董・ガラクタ市

4月11日(土)
12日(日)

蚤の市

灯かりをテーマに..
毎週火曜日は
着物の日です

ミルクホールタイムスは、
毎月25日に発行しています。
定期購読ご希望のお客様は、
当店にてお申し込み下さい。
お葉書、メールにてのお申し込
みは、下記へご連絡下さい。

ミルクホールタイムス編集部
〒248-0006
鎌倉市小町 2-3-8
PHONE 0467-22-1179
FAX 05034882872
e-mail
info@milkhall.co.jp



HISTORY

KAMAKURA

場所の記憶 33

ミルクホールのルーツ 19

その日の未明にあった火事は、5人の家族それぞれに、少しの影を落としたことであ
り。その日まで家にあったもの、どこかの家にもあるもの、思い出の写真や、使い慣れた
机や椅子、大切にしておいた古い着物、真新しいピアノ、全て焼けてしまいました。
それと共に、明治に創業し、繁栄を極めた「いそみ旅館」の縁に繋がる鎌倉駅前の最後
の家が、燃えてなくなりました。ミルクホールのマスターは、ありし日の「いそみ旅館」を知る
11人兄弟に生まれた子供達の最後の子供でした。
子沢山の時代の60人もの従兄弟達の中では最年少
だったマスターだけは、華やかだった「いそみ旅館」
の記憶がありません。明治・大正・昭和、そして戦後、
時代の終焉と共にいそみ旅館は衰退し、そして、立
派だった旅館の建物も、そこにあった夢も、いつしか
朝露のように姿を消していました。そして、その夢の片
鱗を記憶していた人達の、最後の心のより所であつた
かのよう、その駅前の家も未明の火事で消失しまし
た。昭和35年1月の事でした。戦後の物資乏しい時
期を乗り越え、やっと日本中が豊かになりかけた時代
のことです。5人の家族はそれぞれ言葉少なに、失っ
たものを埋めようとしていました。けれど、一番心痛め、
苦勞に苦勞を重ねたのは、3人の子供を育てたお母
さんだったでしょう。昨年亡くなった姑が残した粗末な
遺品が、何よりそれを物語っていました。 次号へ続く



Information

ミルクホールタイムス 総集編 ¥1800

「鎌倉ミルクホールタイムス」No.001 ~ No.100

ミルクホールタイムスを1976年の創刊号より、100号まで
人気連載中の「鎌倉の猫事情」を第一話より掲載しています。

ミルクホールタイムス定期購読募集

年間購読料 ¥1500



伊万里・古陶磁
和洋家具
古民芸
アンティーク

ミルクホール

骨董・ガラクタ市

蚤の市

3/14 Sat. ... 20 Fri.

ミルクホールのアンティークは
明治・大正時代の日本のものを中心に
古き良き時代の暮らしの中で親まれた品々を
手ごろな価格で揃えています。中には意外な掘り出し物...

懐かしい時代の香り
日本の木の手触りを大切にしたい
ミルクホールの蚤の市

朝11時より

..... 蚤の市 入荷予定

3月の蚤の市のテーマは、日本の木のものです。

ミルクホールでは、古くから日本で作られ大切に使われてきた家具や道具を
綺麗にし、痛んだところを手直しし、使いにくいところは改造して出しています。

江戸末期～大正時代の筆筒色々 木の風合いを比べて見て下さい。

ミルクホールオリジナルカウンターテーブル 2種

鋳物のミシン脚に、日本で作業台として使われていた無垢板を天板に再利用しました。

古民具再利用各種 箱・桶・作業板・裁縫台など

日本の道具を大切に使い込んでいた、昔の人たちの手のぬくもりが伝わってきます。

14(土) 初日新入荷 朝11時 OPEN!

オリジナルカウンターテーブル L189cm H73cm ¥48000より

大正時代ガラス水屋 2段 w170cm H175cm ¥118000

京筆筒(赤) w90cm ¥29000 明治小筆筒各種 ¥9500より

他 古陶磁・大正時代ガラス器・古民芸・着物など 多数入荷

17(火) 火曜日は着物の日 きもの 20% off

18(水) 新入荷 入れ替え日です。

伊万里・古伊万里 昭和初期家具類入荷予定

ミルクホールオリジナル和の小もの 漆椀・盆 大正色絵など

20(祝) 最終日 額絵・ポスター各種入荷

残り物には福がある!?



..... ANTIQUES

古布・古裂

✂ 半衿・帯揚げ

無地の半衿 ¥500より

銘仙・絞りなど ¥800より

✂ 帯締め ¥800より

✂ 古布 反物

大島紬・絞り・銘仙など

1mにつき1000円ほどの価格です。
ご自分で色々なものをお作りになる
方達のご要望に合わせて、多種多様
な日本の布地を取り揃えています。

✂ くるみボタンと
かんざし

くるみボタン ¥100より

くるみボタンコム

手作りかんざし ¥1800より

♠ 和洋家具

大正時代ガラス水屋 2段

カウンターテーブル ミシン脚 2種

明治庄内筆筒 京筆筒 桐筆筒

明治・大正時代小筆筒各種

昭和初期デスク色々

明治～昭和文机各種

大正時代ガラスケース各種

明治時代衝立・昭和初期衝立

裁縫台各種

♥ 古民芸

大正時代鏡台

漆お椀・茶托・御膳

明治道具箱・銭箱・樽など

李朝青磁・白磁

常滑壺 越前壺

◆ アンティーク

藤田嗣治パステル画額入り

竹久夢二リ額入り

明治乳白ガラスシェード

照明スタンド各種

額絵・ポスター各種

♣ 古陶磁

古伊万里染付鉢

幕末伊万里そば猪口

明治錦絵七寸皿

明治銅版小皿

伊万里輪茶碗・そば猪口

古伊万里豆皿・なます

明治瀬戸石皿・鉢

伊万里蓋お碗各種

✂ 帯

名古屋帯

袋帯

昼夜帯

半幅帯

✂ 着物

大島紬・琉球紬・銘仙

久留米紬・お召し・縮緬

